

会議の要旨（議事録）

| | | | |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------|------|-------------|
| 会議の名称 | 鳥栖市社会教育委員定例会 | | |
| 開催日時 | 平成27年2月25日(水) 13時30分から | 開催場所 | 市役所南別館2階会議室 |
| 出席者数 | 17人 | 傍聴人数 | 0人 |
| 議題 | (1) 鳥栖市社会教育研修場のあり方について (2) 平成27年度社会教育関係団体への補助について (3) 弥生が丘まちづくり推進センターについて | | |
| 配布資料 | ・ 鳥栖市社会教育委員定例会資料 | | |
| 所管課 | (課名) 生涯学習課 (電話番号) 0942-85-3694 | | |

1. 開 会

- 事務局(佐藤課長)
 - ・委員欠席者の報告
- 教育部職員紹介
- 天野教育長あいさつ

2. 議 事

(※発言者 ○:委員、●:事務局)

(1)鳥栖市社会教育研修場のあり方について担当課より報告。

- 十数年前、施設を利用した時は命がけだった。栖の宿を利用するのは合理的な考え方だと思う。費用を負担するのは仕方がない。
- もったいない。使用できるようにならないか。ここは、最高の場ですと言って体験をされていた。何をねらうのか。何でもあるきれいなところで体験をさせるのと、何もないところで不自由な中での体験させるのではねらうところがちがう。
今の子ども達を見ていたら、生きる力はない。全部揃ったところで生活している。不自由な中で体験するというのも必要なのではないか。取り壊しをされてもテントをはってキャンプができたという場に。金では買えないすばらしい環境の場。
- 自然に囲まれたところ。あぶない状態では無理。栖の宿は市の施設か。
- 建物は市の施設。管理運営を指定管理者の民間企業へおまかせしている。利用料金を含めメニューを民間企業で設定できるようになっている。新たに集客を広げようということでパンフレットにあるようなメニューを設定されて利用促進を図っていくことで運営をされている。その事業所とも協議が必要となる。
- 事務局案に賛成
- 廃止した後の跡地の利用は考えているか。
- 具体的な考えは持ち合わせていない。施設を使わなくなると早く朽ちてしまうので、早く更地にとは思っている。その後、ご意見いただいたように社会教育があった場所なので、何かそういうものに使用できるようであればその方向で考えていこうと思う。
- グラフの数字は件数か。平成25年度は、子どもが2件、大人が6件という事か。
- 全体が6件、うち子どもが2件。
- 皆さん、結構だという意見だが、委員から意見が出た自然体験というのは、子ども達にとってますます必要になっていく、その中に本当に便利さだけでいいのか、不便さの中に放り込むという方が大事なのではないかという意見も記録しておくように。費用負担の意見と自然体験の必要性の2つの意見を明記するように。

(2)平成27年度社会教育関係団体への補助について担当課より説明。

- 補助金はどれくらいでなのか。
- 鳥栖市では要綱を定めており「予算の範囲内において補助金を交付する」としており、毎年、社会教育委員会の中で交付については資料としてお示しをしている。交付要綱の中に「社会教育委員の意見の徴収」という事が定められていて、補助金を交付しようとするときはあらかじめ社会教育委員会の意見を聞かないといけないということになっているので、提案をした。5団体で99万円。今年度は、鳥栖地域婦人連絡協議会に30万円、市青少年育成市民会議に19万円、市子どもクラブ連絡協議会に20万円、鳥栖スカウト育成会に3万円、鳥栖地区小中学校PTA連合会に27万円。

- 市老連が考えている「いきがい学び塾」の中に2つの柱を立てる。1つは「寺子屋英語」です。今、田代、麓、鳥栖の3か所。小学生を対象に英語の勉強をしている。講師が必要だが、みんな自分の時間がとられるため嫌がる。しばられるから。ボランティアだから。老人会でもしたくない人ばかり。7校区で広げて行こうと思っている。徳育も必要。もう1つは我々老人が勉強しないとイケない。ボケないように。ボケるという事は金がかかるといふ事。1割でも健康で病院にいかなければ鳥栖市に貢献できる。話合いをする場を設けたい。補助してもいいと思ったらお願いしたい。
- 5つの交付団体は、長く続けている。見直しも必要。高齢化社会になっている中、高齢者を地域に貢献させないとイケない。個人的ではあるが、新たな取り組みへの支援を検討いただきたい。

(3) 弥生が丘まちづくり推進センターについて担当課より説明。

- 栖の宿の中に子ども達の宿泊の場を作っていた。ぜひ、ただ泊まるだけではなく、体験ができるような周りの環境を整えて、そういう場を考えて頂くと子供が育っていく場としていいのではないかと思う。((1)の追加意見)
- 駐車場はどうなっているか
 - 駐車場は、建物の敷地の東側、奥の方が駐車場となる。図面の車寄せは、雨に濡れないために作っている。その右側に駐車場ができる。その奥が青葉園になる。
- 何台くらい駐車できるか。
 - 30台
- 建物の規模は他のまちづくり推進センターより大きいのか
 - 周りの足場があると大きく見えるが、建物の規模自体は変わらない。
 - 基本設計までは、生涯学習課で行っている。基本的な考えは、他の地区公民館の状況を逸脱しない。他の地区と同規模のものしか建てないという基本に基づいて行っている。
- まちづくり推進センターとしては、初めての施設、期待している。
- 子ども達の自然体験学習は、鳥栖市としては大事な事。いいアイデア、いいものを考えていただきたいとお願いする。

3. 閉 会